

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年9月25日号

より小さな学校・より大きな学校で、広がる「笑顔」

校長 埴岡 靖司

6年生の算数の学習の様子です。2学期から「より小さな学校」の実践を進めています。4,5,6年生の算数の学習からはじめました。この学習をはじめたことのおきの成果は、「笑顔」です。子どもは、「わかった！できた！！」の最高の笑顔を見せてくれます。小さな学校で、ひとり一人の学習が充実することは、一番必要なこととらえています。



もう一枚の写真は、9月18日、19日に行った修学旅行の様子です。梅原小と桜尾小、大桑小の合同で行いました。「より大きな学校」の実践です。この活動でのおきの成果も、「笑顔」です。学校を越えた仲間と寝食を共にして活動する。いろいろな人とふれあうすてきな機会です。とおきの笑顔で、社会性を育むことができます。



「小さな学校」でよく学び、「大きな学校」でもよく学ぶ。めざすところは、子どもの満足した「笑顔」です。学びに遠慮はいりません。大いに学び、大いに活動できる最高の環境を、学校は工夫していきます。

梅原小学校学校運営協議会報告 =防災について考える=

9月10日(火)に、第2回梅原小学校学校運営協議会を開きました。大きなテーマは、「地域防災」。そこで、講師に清流の国ぎふ防災・減災センター村岡治道先生を迎え、地域防災について学びました。梅原小学校は、土石流警戒区域の中にあります。最初に、土石流災害に対応した避難訓練と村岡先生の講話の参観をしていただきました。その後、学校運営協議会委員のみなさんと村岡先生を交えて、地域防災について、意見交流をしました。梅原小学校・梅原保育園・梅原公民館と、大雨で土石流災害の危険があるときは、協力しての避難になることや、ハザードマップでは、梅原スポーツ公園への避難になっているが現実には合わないことなどの意見が出ました。学校としても、土石流災害の警戒情報のレベルが低いうちに保護者との連携をとらないと、迎えに来ていただいた保護者も体育館での避難となることも予想されることを学びました。



また、日々防災意識を高めるための取り組みが提案されました。今後も、地域と学校が一体となって防災について考えていきます。



このような取り組みをはじめました

『iPadを使わない日～デジタルデトックスデー～』、iPadなどのタブレットからはなれて、学校生活をおくる日をはじめました。仲間と楽しんだり、自分を高める活動をしたりと、機器からはなれた学校生活を送っています。ポイントカードを作り、機器を使わない日を、楽しめるよう工夫しています。

